

第3回横須賀市教育振興基本計画策定検討委員会 議事録

■日 時 令和3年(2021年)9月8日(水) 10:00~11:30

■場 所 Web会議システムによるリモート開催
(教育委員会事務局は304及び404会議室、傍聴は301会議室にて実施)

■出席者 (敬称略)

| | |
|-------|--------------------------------|
| 委員長 | 小林 宏 己 (早稲田大学教育・総合科学学術院 教授) |
| 職務代理者 | 梨 本 加 菜 (鎌倉女子大学児童学部 教授) |
| 構成員 | 渡 辺 孝 夫 (社会教育委員) |
| | 櫻 井 聡 (横須賀市PTA協議会 会長) |
| | 梅 谷 尚 子 (小学校校長会 代表) |
| | 伊 藤 学 (横須賀総合高等学校 校長) |
| | 松 浦 大 翼 (三浦半島地区教職員組合 副委員長) |
| | 小野寺 恵 史子 (公募市民) |
| | 岡 本 純 子 (公募市民) |
| 欠席者 | 妹 尾 昌 俊 (教育研究家、合同会社ライフ&ワーク 代表) |
| | 小 番 奈 緒美 (中学校校長会 代表) |

| | |
|----------|------------------------|
| 教育委員会事務局 | 佐々木 暢 行 (教育総務部 部長) |
| | 米 持 正 伸 (学校教育部 部長) |
| | 高 橋 直 人 (生涯学習課 課長) |
| | 川 上 誠 (教育指導課 課長) |
| | 富 澤 真由美 (支援教育課 課長) |
| | 鈴 木 史 洋 (保健体育課 課長) |
| | 阿 部 優 子 (教育研究所 所長) |
| | 古 谷 久 乃 (教育政策課 課長) |
| | 小 甲 諭 (教育政策課 課長補佐) |
| | 内 田 貴 雄 (教育政策課 主査指導主事) |
| | 伊 藤 颯之介 (教育政策課 担当者) |

■傍聴人 1名(301会議室にて大型ディスプレイからの視聴により傍聴)

- 議 題
- 議題 1 次期横須賀市教育振興基本計画における目指す姿（案）について
1 検討経過と事務局案について報告
2 委員による意見交換
- 議題 2 方針・柱・施策（案）について
1 検討経過と事務局案について報告
2 委員による意見交換
- 議題 3 今後のスケジュールについて

- 資 料
- 資料 1 次期横須賀市教育振興基本計画における目指す姿（案）
- 資料 2 方針・柱・施策（案）に対する検討委員会委員の意見と事務局の考え方
- 資料 3 方針・柱・施策（修正案）
- 資料 4 計画の体系
- 資料 5 今後のスケジュール
- 参考資料 議事録（第 2 回検討委員会）

- その他
- 本委員会は、全部を映像と音声の送受信により相手の状態を相互に確認しながら通話をすることができるシステムを利用する方法により行い、会議の冒頭において、事務局が委員間で映像と音声即時に伝わることを確認するとともに、映像と音声により委員本人の確認をした。

■発言内容

（教育総務部・佐々木部長）

ただいまから、第 3 回横須賀市教育振興基本計画策定検討委員会を開会いたします。

本日もオンライン上での会議となりますが、妹尾委員及び小番委員から欠席の連絡をいただいております。ご了承ください。

それでは、会議の進行を小林委員長にお願いいたします。よろしくお願いたします。

（小林委員長）

前回の会議では、未来に向けて横須賀の教育が目指す姿について委員の皆様の思いをお伺いするとともに、事務局が用意した「目指す姿」のたたき台について、ご意見をいただきました。

本日は、次第に記載のとおり、「議題 1 次期横須賀市教育振興基本計画における目指す姿（案）について」「議題 2 方針・柱・施策（案）について」「議題 3 今後のスケジュールについて」の 3 つを議題とします。

議題に入る前に、前回の会議後に行われた作業部会での協議内容について、事務局から

報告をお願いします。

(教育政策課・古谷課長)

7月29日に作業部会を開催し、妹尾委員、梅谷委員、小番委員にご出席いただきました。櫻井委員はご欠席でしたが、会議後、別途ご意見をいただきました。

作業部会では、事務局がまとめている「目指す姿」や「方針・柱・施策」に関する検討内容を報告し、本日の会議に向けて整理すべきことを協議しました。協議の内容につきましては、この後の議題の中でご説明させていただきます。以上でございます。

(小林委員長)

それでは、議題1「次期横須賀市教育振興基本計画における目指す姿(案)について」に入ります。事務局から説明をお願いします。

議題1 次期横須賀市教育振興基本計画における目指す姿(案)について

(教育政策課 小甲課長補佐)

前回会議では、委員の皆様から未来の横須賀の教育に対する思いや大切にしたいことをお話しいただきました。あらためて、ありがとうございました。

いただいた内容は、大きく3つに分類されるかと思います。そして、これは教育フォーラムでの市民の皆さんの思いとも、ほぼ共通していたと考えています。

1つ目として、「自立(自律)」「主体性」「生涯学び続ける力」といった言葉でまとめているのですが、自分自身を強くしていく力、自分らしく生きること、自ら考え行動し、学び続ける力を大事にしたい、というご意見を多くいただきました。

2つ目として、「多様性」「協働性」といった言葉でまとめているのですが、みんなが笑顔でなくてもいい、多様な価値観を大事にしたい、相手を思いやり、お互いに助け合うことを大事にしたい、というご意見を多くいただきました。

2ページをお開きください。3つ目として、「横須賀への思い(郷土愛)」といった言葉でまとめているのですが、「大人になって横須賀に帰ってきて、貢献できる子に育ててほしい」「横須賀の良さを世界に発信できる人間になってほしい」「横須賀で働く大人たちの背中を見せる教育が必要」といったご意見や、「横須賀の誇るべき文化などの視点も入ると良い」といったご意見もいただきました。

これについては、点線で囲ってありますとおり、多様性を大事にする中で、地元愛が押し付けにならないように注意が必要ではないか、といったご指摘があり、そこからさらに意見交換がされました。

その中で、「やはり横須賀の教育をどうするか、なので、自信を持ってしっかり発信すべきだろう、ナショナリズムではなく、人として自然な愛情、ということを共有した上で表現を工夫し、大切に扱いたい」というご意見をいただきました。また、「押し付けにならない

いようにしたいが、案配をとって、なるべく地域への気持ちは込めたい」というご意見や「時間をかけて、結果として、横須賀が好きになり、子どもも横須賀を誇りに思っている」という、ご自身の体験、実感もお話いただきました。横須賀への思いに関する意見交換は、このような内容だったかと思います。

また、1・2ページには記載していませんが、このほか、「子どもの福祉・幸せをより強調した方が良い」「探究的な学び・好奇心を高める方向性が大事」「子どもが主役というかたちで考えらえると良い」というご意見もいただきました。

以上が、まず、各委員の思いについてまとめた内容となります。

続いて、3ページをお開きください。

何を指すか、については、「子ども像よりも、人間像（人づくり）が望ましい」といったご意見を多くいただきました。学校教育（義務教育）だけでなく、大人になっても学び続ける、子どもも大人も学び合うということが、人口減少社会を考えても大事である、という議論でした。

そして、構成については、「シンプルなものが良いが、そこに込めた思いや背景の説明が大事」というご意見を多くいただきました。

市民、学校、子どもに浸透させていくためにも、分かりやすさ、覚えやすさが重要である一方、シンプルすぎても伝えたいことが伝わらないので、そこに込める思いはしっかりと伝え、また、通り一遍のものにならないような工夫が必要である、という議論でした。

以上が、前回の検討委員会で皆様からいただいたご意見のまとめですが、これらを踏まえ、目指す姿の事務局（案）をご説明します。

4ページをご覧ください。

次期横須賀市教育振興基本計画では、『私が好き あなたが好き 横須賀が好き』と誇れる人づくり」を、横須賀の教育の基本理念として定めたいと考えています。

基本理念に込めた思いをご説明します。

「私が好き」には、自分らしく生きることを大切に、自ら考え、行動し、自分で判断する力や、生涯自ら学び続け、自分を律する力を持った人になってほしいという思いを込めています。横須賀の教育は、自己肯定、自立・自律、主体性を大切に、「私が好き」と誇れる人を育てます。これが、「私が好き」に込めた思いです。

「あなたが好き」には、相手への思いやりを大切に、違いを認め、受け入れる心を持ち、様々な価値観を持った人と力を合わせ、助け合える人になってほしいという思いを込めています。横須賀の教育は、他者理解、多様性、協働性を大切に、「あなたが好き」と誇れる人を育てます。これが、「あなたが好き」に込めた思いです。

「横須賀が好き」には、生まれ育ち、学び、暮らす地元への愛情・愛着を大切に、地域の歴史や文化、人と人とのつながりを実感できる人になってほしい、そして、横須賀で活躍し、自信を持って横須賀の良さを発信できる人になってほしい、という思いを込めています。横須賀の教育を通じ、誰もが自然に「横須賀が好き」と誇れる、そんな姿を目指します。これが、「横須賀が好き」に込めた思いです。

5 ページをご覧ください。補足説明をさせていただきます。

「私が好き あなたが好き 横須賀が好き」は、市民の皆様に、未来の横須賀の教育について夢や理想を語っていただいた「横須賀市教育フォーラム」の中で出てきた言葉です。

自己肯定・他者理解・郷土愛など、フォーラムの中で多くの方からいただいたキーワードを包括できるとともに、シンプルで覚えやすく、目指す姿を一言で表せる、浸透させやすい言葉だと考えています。

ただ、この「好き」という言葉を使うことについては、様々な意見がありました。「自分を好きになれない困難な状況の人に対して、辛い内容ではないか」「多様な価値観を大切にするといいながら、好き嫌いを押し付けることになるのではないか」といったご意見です。

「好き」という言葉はシンプルで覚えやすい反面、丁寧な説明がないと意図しない伝わり方になってしまうため、「基本理念に込めた思い」の中に、「好き」が意味する内容や、教育の中で大切にしたいことを表しています。

横須賀の教育に関わる人々が基本理念を共有し、それぞれの視点で、それぞれに合った取り組みを行っていくことにより、結果として誰もが自然に「私が好き あなたが好き 横須賀が好き」と誇れる人になってほしい、という思いを込めています。

6 ページをお開きください。

基本理念のイメージです。ただいまの補足説明に関する部分も含め、基本理念をイメージしやすい図ではないかと考えています。

以上が、次期計画で目指す姿「横須賀の教育の基本理念」(案)についての説明となります。よろしく願いいたします。

(渡辺委員)

目指す姿の案を 100% 支持します。「私が好き」という部分については、若年層の自殺抑制などに絡み、自分を大切にする気持ちや、自分の周りにいる人たちを大切に思う気持ち、自己肯定感を高めることなどにつながると思います。

次に、「あなたが好き」という部分については、多様性を認め合い、互いにリスペクトする気持ちが大切であるということにつながると思います。

最後に、「横須賀が好き」という部分については、今住んでいる横須賀が、将来ふるさととして誇れるということは、非常に重要なことであると思います。だからこそ、生まれたところでなくても、また、将来、横須賀から出て行ったとしても、横須賀で暮らした時を大切にし、思い出になるような生き方ができたと思えるような土地であれば、他人にも自慢でき、誇れることになると思います。また、現在、横須賀で活躍できていなくても、将来、世界を股にかけて活躍できるようになったときに、自分の出身地は横須賀であり、その横須賀とはこんなに良い場所であると誇れるような人になってほしいというように思います。

(伊藤委員)

渡辺委員とほぼ同じ意見です。全体として、基本理念は大変良くまとめられていると思いますし、要点が押さえられていて、非常に良くできていると感じました。

「横須賀が好き」のところで、「横須賀で活躍し」というところにこだわりがあるようですが、横須賀総合高等学校の目指す生徒像の中でも、「横須賀の良さを世界に発信できる人間」ということを学校経営方針として掲げています。私は日ごろから生徒に対し、横須賀で活躍することも、あるいは世界に出て活躍し、その中で横須賀の良さを発信することも、どちらも良い選択肢であるということを説いています。必ずしも、横須賀で活躍するということに限定する必要はないと考えています。

また、「郷土愛」という言葉が記載されていますが、これに対し、皆様のご意見の中に「押し付けがましい」や「ナショナリズム」というような言葉があったかと思います。確かに「郷土愛」という言葉を使うと、押し付けがましいという理解をされてしまうのではないかと懸念は、ややありますので、ここは、「郷土理解」などの表現の方が良いのではないかと感じました。

(小野寺委員)

私も概ね賛成ですが、日本語の「好き」という言葉は、表現が難しいと感じました。横須賀市内では、様々な国の子どもたちが共に生活していますが、教員が生徒にこれを英語で教えるときに、全て「I like～」で表現できるのだろうかという疑問を持ちました。例えば、「あなたが好き」という部分は、「I'll treasure you」というような表現にするなど、英語にすると日本語のニュアンスが少し砕けるので伝わりやすいと思います。多国籍の子どもや保護者たちにも配慮ということを前提にしているのであれば、英語表記についても考慮して表現すると、この基本理念はもう少し優しく伝わるのではないかと感じました。また、単純に英語の表記があれば、横須賀らしいと思ってもらえるのではないかと感じました。

(櫻井委員)

小野寺委員から提案のあった英語表記ということについて、すごく良いと感じました。「好き」という表現は、補足があれば印象は柔らかくなります。

また、「郷土愛」という表現について、地域と学校と家庭で教育を支えるということを考えてときに、その中の地域の部分が、郷土愛につながっていくのだというイメージがありますが、「横須賀が好き」はともかく、「郷土愛」とストレートに表現すると、やはりナショナリズムであるとか押し付けであるというような、別な意味合いで取られがちな気がします。とはいえ、横須賀の計画であるので、「横須賀が好き」は、ぜひ推していただきたいと思います。現代では外に出ない子どもも多いので、「横須賀が好き」という気持ちで、地域にどどんなじんでいってほしいと思います。

次に、「私が好き」について、この前の教育フォーラムでも、自己肯定感や主体性といっ

たことが話題として出ていましたが、忘れてはいけないこととして、あの教育フォーラムに出席していた子どもたちは、ある程度自己肯定感があり、多様性などについてもある程度理解していたということです。最近のPTAでも話題になるのが、自己肯定感の低い子どもたちが目立つということです。「私が好き」という表現をしたときに、自己肯定感の低い子どもたちが置き去りにならないよう、補足する工夫が必要ではないかと感じました。

(梨本委員)

英語表記を加えるという案には非常に賛成です。さらに、英語以外の言語でも表現することや、英語にしたときにどのように表現するかなどの配慮が必要になってくるのではないかと思います。

また、「人づくり」という部分について、人づくりをする環境を作っていくということも、行政の役割であると思いますので、「人づくりのための環境整備」というような方向性で考えていくことも必要になるのではないかと思います。

次に、「郷土愛」という部分について、「地域への理解を深める」など、少し表現を変えなければならない必要性はあるのではないかと感じました。

(岡本委員)

「横須賀が好き」の補足の部分について、「生まれ育ち」という言葉がありますが、横須賀で生まれ育った子どもばかりでなく、色々な国からも子どもがやっていますので、そういった子どもたちにとっては、少し抵抗感のある言葉のように捉えられてしまうのではという懸念があります。

(松浦委員)

基本理念の部分ですが、多くの学校でも取り入れられているものでもあるので、子どもたちにもなじみ深いのではないかと思います。横須賀の子どもたちにとって、使い続けていくことのできるキャッチフレーズになっていると思いますので、とても良いと感じます。

また、イメージ図について、この図だと、上下の位置になっており、最終的に「横須賀が好き」という郷土愛に結び付くような作りになっているように見受けられます。矢印が繋がって行って、最後に「横須賀が好き」というところに集約されているように見えますので、皆様をご指摘している「郷土愛の押し付け」のように捉えられてしまうのではという懸念があります。この3つの理念については、それぞれが相互に関係しているものと考えており、例えば、「横須賀で暮らしている私が好き」や、「あなたが好きだから、もっと私が好きになった」というように、この3つは様々な方向性で、並立的につながり合っているのではないかと考えています。三つどもえ的な、並列で相互的なイメージで図を作れると良いのではと感じます。

(渡辺委員)

「好き」という表現について、補足を加えなければならないということならば、キャッチフレーズ自体は「人づくり」というところで止めておいて、補足の説明の中で、「好き」という言葉に対する補足説明をすれば良いと思います。

(岡本委員)

「生まれ育ち」というところと、「暮らす地元」という部分が気になっており、例えば、「この場所で出会い」などのように、「出会い」という言葉を使って置き換えられないかと考えました。

(櫻井委員)

イメージ図に関しては、松浦委員に共感します。トライアングルのような形でつながっていけるものであると良いと思います。「私が好き」が初めの取り掛かりだと、先ほど申し上げたように、自己肯定感の持てない子どもたちにとって、その取り掛かりから入りづらくなってしまう。しかし、「あなたが好き」や「横須賀が好き」ということであれば、少しずつ入り込んでいけるのではと思います。

また、基本理念の3つの好きについて、私はこの表現で良いと考えます。好きという言葉は、言われて悪い気持ちになるものではありません。肯定感も持つことができ、前向きなイメージで良いと思います。あとは細かいところを、補足で説明していけば良いと思います。

(梅谷委員)

イメージ図について、上下や番号があると、そこに順序が発生してしまうので、そういった要素がない形で作成していただくと良いのではと感じました。

また、「人づくり」という部分について、「理念」は、基となる考え方ということですので、「人づくり」が基となる考え方なのか、というように捉えられてしまうこともあるのではと感じました。本来の理念は、「私が好きあなたが好き横須賀が好き」ということであるのに、「人づくり」を前端的に捉えられてしまうのではないかという懸念があります。

この基本理念を学校教育に当てはめて考えると、「私が好き」という部分については、個に対するアプローチという要素が込められているように感じられます。「あなたが好き」という部分には、学校の中での協働的な学びの世界の中で、他者を認め合っていくという意味合いが感じられる言葉であると思います。「横須賀が好き」という部分には、子どもたちを取り巻く地域の環境や、地域と手を携えていくということで、言葉の背景にあるものを教職員が大事にし、子どもたちと向き合っていきたいと思えるようなになれるものであると感じます。このようなことを総合して考えたときに、理念という視点で「人づくり」という言葉を考えると、少し引っ掛かる部分がありました。

(伊藤委員)

今の梅谷委員のお話に対処するような意見かもしれませんが、この理念は、あくまで横須賀の教育としての理念であると考えたときに、「人づくり」というのは最重要課題であると思いますので、最後が「人づくり」で終わっている方が、違和感がなく受け入れやすいと感じます。

また、「生まれ育ち」などの部分について先ほどから話題になっていますが、横須賀には自然環境の良さや人の温かさというものがあり、横須賀が自分を支えてくれるような部分があることで、安心して暮らせると実感する場面もあります。そういった環境の中だからこそ、私が好きになったり、他者を尊重したりというようなことができるようになるのではないかと思います。基本理念の中には、自然環境という言葉が出てきませんが、そういった横須賀の良さを、より実感できるような表現に工夫できると良いのではと思いました。

(梨本委員)

皆様が「人づくり」で違和感がなければ、「人づくり」のままでも良いと思います。「生まれ育ち」という部分に関しては、なくても良いのではと私も感じます。

また、伊藤委員からお話のあった自然環境に関して、当たり前のように歴史や文化、自然の良さがあるということと、それらについてさらに学び理解するといった内容のことも加えられると良いのではと思いました。

(松浦委員)

「人づくり」の部分について、「人へ」や「人に」に変えても良いのではと思います。そのあとに続く言葉は、それを見たそれぞれの人の想像に任せるような表現にすれば、そこまで強い表現にならないのではと考えました。

(小野寺委員)

「郷土愛」という表現について、強い表現に聞こえるかもしれませんが、個人的には嫌いではありません。しかし、地元を理解するということはとても大事だと思いますし、子どもたちに環境や文化を活用し守ってってもらいたいという思いを考えれば、地元愛や郷土愛を全面的に出すよりも、「環境を理解する」などというような表現の方が分かりやすいのではとも思いました。

また、「基本理念」という表現については、やはり強く感じるので、「目指す姿」などのようにした方が、マイルドで一般市民にとっても受け入れやすいのではと感じました。

■議題2 方針・柱・施策（案）について

（教育政策課 小甲課長補佐）

修正する部分を中心にご説明します。

まず、方針1についてですが、方針のネーミングは、目指す姿（案）や方針2の表現を考慮し、「自立心と主体性のあるより良い社会の創り手を育てます」に修正します。

次に、施策2について、個に応じた「指導」だと教師がしっかり教え込むニュアンスがあるので、学び方自体を子どもが選択しやすくなってきていることから、「個に応じた学びの充実」に修正してはどうかのご意見をいただきました。ご意見のとおりだと思いますので、そのとおり修正します。

また、原案では施策3としていた「グローバル化社会・情報化社会を生きる力の育成」については、社会環境を鑑みてあえて別建てにしておりましたが、他の施策にも含まれる内容であり、別建てすることによるバランスの悪さも生じてしまうため、別建てはしないこととします。

次に、方針2については、柱2施策2は「不登校児童生徒に対する」だと主体が子どもになるのでイメージがよくないのではないかと、というご意見をいただきました。確かに、不登校となった児童生徒に対する支援だけでなく、不登校の未然防止にも取り組んでいくことでもあるので、「不登校に関わる支援の充実」と修正し、その下の施策3も同様の趣旨で、「外国につながるのある児童生徒に関わる支援の充実」に修正したいと思います。

続いて、方針3については、柱1施策1について、市民が読んでより分かりやすい表現にすべきというご意見と、学び合い、学びを生かす場の重要性についてのご意見をいただきました。ご意見のとおり施策1を修正するとともに、「学びの成果を生かせる場の充実」を施策2として別建てし、これら2つの施策をまとめて柱1「人生100年時代の学び合い」に修正したいと思います。

「図書館・博物館・美術館の充実」については複数の方から修正の提案をいただきました。市民に知ってもらい、触れてもらい、心を豊かにしてもらおうということが大事だというご意見だと思います。そのため、「図書館・博物館・美術館による豊かな学びの推進」という表現に修正したいと思います。また、これと、施策「文化遺産の活用と将来への継承」と合わせて「地域の歴史・文化・自然から得る学び」としてひとつの柱にしたいと思います。

その下の、原案では柱2施策2としていた「地域の教育資源・学習環境の活用」については、これだけが手段の話になっているが、随所に地域資源の活用は関係していることから、施策として特出しすることについてご意見をいただきました。ご指摘のとおり、施策としては特出ししない形に修正します。

次に、方針4については、柱1施策2としていた「学校の安全・安心の推進」は、最も大事で市民の関心も高いので、施策の最初の方に持っていった方が良いというご意見をいただきました。ご意見のとおり、施策1に繰り上げたいと思います。

また、急激な子どもの減少が見込まれる中で、適正規模の学校配置、統合化に関する記載について検討すべきとのご意見をいただきました。こちらについては、「児童生徒数の減少等に対応した学びの環境整備」とすることで、適正な学校規模の必要性を含ませたいと思います。

「家庭の経済状況への対応」については、複数の方から、家庭への経済援助自体が目的でなく、子どもが学び続けることが主眼なので、ネーミングを検討すべきとのご意見をいただきました。この施策では確かに就学援助、奨学金支給といった取り組みを想定していますが、目的はあくまで子ども自身が学び続けられるようにすることなので、ご意見を踏まえ「経済的理由に左右されない学びの機会均等」に修正します。

また、家庭の経済状況への支援に加え、家庭教育の支援、家庭の教育力向上の必要性についてご意見をいただきました。これらについては、原案での方針3の施策「学校・家庭・地域の連携による教育力の向上」に含めていますが、方針3は生涯学習の側面が強いため、方針4に変更します。学校だけでなく、家庭、地域との連携がより必要な時代になっているという点で、社会環境の変化に即した、持続可能な教育環境整備に位置付ける方が適切という考えです。

なお、柱2のタイトルは「学び続ける教職員」に修正します。働き方改革の推進も、教職員が学び続けられるような、時間的にも精神的にもゆとりのある環境づくりに通じると考えられるためです。

以上が、現時点で修正を考えている内容です。他にも、原案どおりとしたいものも含め、多くのご意見をいただいています。資料2にその概要と考え方を示していますので、ご確認いただければと思います。

（梨本委員）

まとめていただいたもので概ね賛成ですが、方針1柱1施策2「個に応じた学びの充実」について、この施策2では、いわゆるICT教育などのような個別最適な学びの部分に言及されているのだと思います。一方で、国の方針で出ていることとして、「協働的な学び」というものがありますが、この部分に言及している施策がないように見受けられますので、そのあたりの要素も組み込んで良いのではと思います。

また、柱4について、「多様な教育的ニーズ」ということを入れていただいたのは非常に良かったと思いますが、「支援教育」という表現に少し引っ掛かりを感じます。横須賀には国の特総研（国立特別支援教育総合研究所）もありますし、ここは「特別支援教育」にした方が良いのではないかと考えます。

「不登校に関わる支援」の部分では、他の支援のニーズもあるかと思いますが、「不登校などに関わる支援」というように変えると、そのようなニーズにも対応したものになるのではないかと思います。

また、柱6施策17について、「による」ではなく、「における」という表現のほうが良いのではないかと思います。

(渡辺委員)

柱6 施策 17 について、「地域の歴史・文化・自然から得る学び」という点から考えれば、この3施設だけでなく、他にも記念艦三笠や浦賀ドックなど様々な歴史・文化施設や人材もありますので、3施設だけを強調することに違和感があります。さらに、柱6には「自然」も入っていますが、施策の中では、その自然の要素が抜けてしまっているように感じます。横須賀には、猿島や観音崎、荒崎などの恵まれた自然環境がありますので、そういった環境に触れて体験し、そして心豊かに学べる活動も加える必要があると考えます。代案として、「地域の様々な資源や自然に接するなどの豊かな学びの推進」というのはいかがでしょうか。

(小林委員長)

梨本委員に触れていただいたように、中央教育審議会の最新の答申の中でも、「個別最適な学び」と「協働的な学び」というものはセットにされています。ですので、この2つをきちっと揃えた形にした方が良いと私も思います。ただ、そうすると結局それは、「主体的・対話的で深い学び」ということに収れんされていくわけであり、その2つをセットにしながらか、「主体的・対話的で深い学び」を推進していくということが、答申の主旨になっています。ですので、場合によっては、施策1と施策2は一本化しても良いのかもしれない。ただ、言葉としては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」ということは強調しておきたいところではあると思います。

(松浦委員)

「教育的ニーズ」の部分について、不登校児童生徒の箇所の修正をお願いしたところですが、不登校になっている児童生徒本人ももちろんケアが必要ですが、その周りには児童生徒や保護者など、様々な人が支援を必要としている現状があると思いますので、児童生徒だけでなく、周りで関わる人々への支援という観点で修正を依頼しました。

また、先ほど梨本委員がおっしゃっていたように、「特別支援教育」に変えた方が良いのではと思いました。

さらに、昨今問題になっている児童虐待やネグレクトなどといった問題については、横須賀市には児童相談所もありますので、その点の施策についても入れられると良いのではと感じました。

今、学校現場で感じているのは、米軍基地があることも関係しているのだと思いますが、外国とつながりのある児童生徒が非常に増えてきているように感じます。それに伴い、経済的に困難な家庭やひとり親の家庭、さらには小さい子どもを抱えて、ヤングケアラーのような生活をしている児童生徒など、特に外国籍の子どもにはそれらの課題が複合的になっているケースが多いように感じています。そういった子どもたちを含め、みんなが同じ教育を平等に受けられるような施策を作っていただきたいと考えています。

(支援教育課 富澤課長)

「支援教育の推進」というところでご意見をいただいておりますが、特別支援教育という名称になると、障害のある児童生徒が対象になってきます。本市における支援教育では、障害の有無に関わらず、様々な支援ニーズのある児童生徒を支援しているものですので、

そのような意味から、「支援教育の推進」という言葉を使用しております。

(梨本委員)

そういったことであれば、「支援教育の推進」という言葉で良いと思います。障害として認められていない支援ニーズのある子どももたくさんいると思いますが、そういった子どもへの支援から、不登校の子どもへの支援もすべて含めての「支援教育」であるという認識でよろしいでしょうか。

(支援教育課 富澤課長)

そのようにお考えいただいて結構です。

また、不登校は本市の喫緊の課題であると捉えており、また、外国につながりのある児童生徒も増えてきているという状況もありますので、そういった児童生徒への支援について大きな課題として捉えております。

(小林委員長)

そうしますと、梨本委員や松浦委員からいただいたご意見に対しては、施策 11 の「支援教育の推進」のところでカバーし、広く多様に対応していけるということによろしいでしょうか。

(支援教育課 富澤課長)

そのようなご認識で結構です。

(梨本委員)

施策 16 について、渡辺委員のご意見にもあったとおり、自然環境に関する文言を入れていただけると良いと思います。

また施策 17 について、学校以外の教育施設というと、なかなかイメージすることが難しいと思いますので、私は、「図書館・博物館・美術館」という文言は入れていただきたいと考えています。他に、生涯学習センターなどの学びの場がありますので、それらも含めた施策にしていいただければと思います。

(小野寺委員)

文化会館などの音楽施設は、この中には含まれないのでしょうか。

(教育政策課 古谷課長)

教育振興基本計画の中で捉えているのは、教育機関としての社会教育施設です。文化会館や芸術劇場などの文化施設に関しては、本市の文化振興基本計画の中で、文化というくくりの中で施策を展開しています。

(渡辺委員)

やはり、「図書館・博物館・美術館」の 3 つに限定することは、納得のいかない部分ではありますが、社会教育施設の全てを挙げるわけにはいきませんので、「図書館・博物館・美

術館などによる」というような記載の仕方もあるかと思いますが、せっかく教育振興基本計画という形のものを出すならば、行政のセクショナリズムにとらわれずに実施計画等で具体的な施設を挙げるなどの考え方を出しては良いのではと思います。

■議題3 今後のスケジュールについて

(教育政策課 小甲課長補佐)

本日いただいたご意見を踏まえ、目指す姿や方針等の教育委員会事務局としての案を固めてまいります。これまでの検討経過について、明日、9月9日に開催される教育委員会9月定例会において、教育委員に対し本検討委員会での議論の内容を中心に報告します。

9月から10月にかけては、計画素案について委員の皆様へ別途意見照会させていただきます。経過は、9月27日の第3回作業部会でご報告いたします。

10月に予定している総合教育会議において、市長に計画の検討経過を報告し、意見交換いたします。

10月20日の第4回検討委員会において、計画素案を報告するとともに、点検・評価結果や目標指標(案)について説明いたします。

その後、11月の教育委員会月定例会でパブリック・コメントにかける計画素案を報告し、12月の市議会報告を経て、12月15日から1月11日までの間、計画素案に対するパブリック・コメントの意見募集を行います。

1月12日の第5回検討委員会、こちらが最終の会議となりますが、パブリック・コメントで市民の方からいただいた意見と、それに対する教育委員会の考え方をご説明します。

1月の総合教育会議で、基本理念・方針の部分を教育大綱とすることについて市長と協議し、策定いただき、2月の教育委員会定例会において、次期教育振興基本計画を最終的に決定する、という流れになります。今後のスケジュールについてのご説明は、以上です。

(小林委員長)

「今後のスケジュール」についてご質問・ご意見はありますか。また、全体をとおしてのご質問・ご意見もあれば、ここでいただきたいと思いますがいかがでしょうか。

(質問等なし)

(小林委員長)

それでは、本日の議題を全て終了させていただきます。本日もご協力ありがとうございました。

以上